

## 第5回茨城県スポーツ推進審議会議事要旨

1 日 時 令和8年2月6日（金） 10時00分～11時35分

2 場 所 茨城県市町村会館1階 講堂

### 3 出席者

（委員11名）荒井委員、清水委員、染谷委員、滝委員、竹内委員、富山委員、永井委員  
中丸委員、前嶋委員、横山委員、渡邊委員  
※下線の委員はリモートでの参加

（事務局8名）

保健体育課：高橋課長、柳副参事、田城課長補佐、相田指導主事、永盛指導主事  
スポーツ推進課：瀬谷課長、佐川課長補佐、植田主査

### 4 議 事

（1）報告

・令和8年度体育・スポーツ振興関係補助金について

（2）審議

①競技力向上について

②生涯スポーツの推進について

（3）その他

### 5 議事概要

（1）報告

・令和8年度体育・スポーツ振興関係補助金について

（委員長）報告に入る。第79回国民スポーツ大会の結果について、事務局より報告願う。

（事務局）第79回国民スポーツ大会の結果について、事務局より報告。

（委員長）事務局からの報告に対して、質問等はあるか。

（委員）世界へ羽ばたくトップアスリート育成事業に係る予算は、競技団体に分配される金額ということか。

（事務局）補助対象団体である県スポーツ協会がジュニアアスリート発掘・育成事業を実施する予算も含まれているので、全てが競技団体に分配される訳ではない。

（2）審議

①競技力向上について

（委員長）では、審議に移る。前回までの分科会ごとに、報告と追加で審議したい内容について事務局より提案いただく。

まず、第1分科会の競技力向上について、事務局より報告願う。

（事務局）第1分科会での審議内容について、事務局より報告。

（委員長）事務局より報告のあった第1分科会の審議内容について、意見や質問はあるか。

では、事務局より、追加で審議したい内容について提案いただく。

（事務局）追加審議項目について、事務局より提案。

- (委員長) 事務局から提案あった項目について、意見はあるか。
- (委員) ジュニアアスリートの育成プログラムの実施について、生まれ月による発育の時間差を考慮して、学年を前半（4月から9月生まれ）と後半（10月から3月生まれ）に分けて、時期をずらして実施していくことや、世界基準で考えると生まれ年（1月から12月）で選考をすることも有効だと考えるが、実現はどうか。
- (事務局) 育成プログラムを2回実施することとなると予算も多くかかるので、検討が必要。また、選考対象を生まれ年にすることについては、学年をまたぐグループになるので、学校行事との兼ね合いや選考時期について考えていきたい。
- (委員) 現在、サッカーのプロで活躍している選手の中にも、早生まれ対象のセレクションで見出されて成長した選手がいる。3月生まれだから成長が遅いという保護者の声も聞くことが多いので、そういった子どもたちにチャンスがあると良いと考える。
- (事務局) 検討していきたい。
- (委員) 世界で活躍する選手の9割が、子どものころは活躍していなかったという研究結果もある。子どものときに様々な経験を積んで、自分には何が適しているのか考えさせていくことは非常に重要だと考える。
- (事務局) 各競技団体と連携して取り組んでいく。
- (委員) 育成プログラムが終わった後は、個人で活動の機会や場所を見つける必要があるのか。
- (事務局) 各競技団体が体験教室や強化練習会などを定期的で開催しているので、そういったものに参加できるよう、県がつなぎ役として支援していく。
- (委員) 古河市ではイベントの際にスポーツ教室などの一覧表を作って配布している事例がある。育成プログラムの中でも、地域の団体やイベントの案内をすることで、保護者や子どもが手軽に情報を得られるようにすることも良い。
- (委員) ジュニアアスリート第5期生の選考会について、1次選考の申込が314名では少ないのではないかと。人口を考えると1,000名以上あってもおかしくないのではないかと。一部の保護者からは「今、活動しているスポーツの指導者の許可が必要なのではないか」と聞いたが、保護者の考えで申し込みをして良いものであるはず。そのようなことをしっかり周知することも必要。
- (事務局) 周知については、私立も含めて県内の全小学校を通して、対象の小学4年生にチラシを配布した。各家庭だけでなく、少年団やスポーツクラブにも周知していくことが必要だと感じた。また、学校の先生方にも、事業の中身について知ってもらう必要があると思うので、今後、広報活動に努めていきたい。
- (委員) 少年団やクラブの指導者から選考会への参加を後押ししてもらえると保護者も安心できるのではないかと。他競技を経験することでスキルアップにもつながるし、将来的にはプラスになると思う。
- (事務局) 子どもが減ってきている中で、選手の獲得競争などもあると感じているが、これからは競技間で連携して育成していく仕組みが必要だと考えており、今後、県スポーツ協会とも共有して取組を実践していく。

(委員長) 20年前に全国で最初に発掘事業を始めた福岡県は、現在は1万人を超える応募があるが、当初はやはり申し込みが少なかった。浸透させるには時間がかかるので、工夫しながら進めていってほしい。

## ②生涯スポーツの推進について

(委員長) では次に、第2分科会の競技力向上について、事務局より報告願う。

(事務局) 第2分科会での審議内容について、事務局より報告。

(委員長) 事務局より報告のあった第2分科会の審議内容について、意見や質問はあるか。

(委員) 高校生は部活動の加入率が4割となっていることから、体育の授業などを通して生涯スポーツの大切さを伝えている。県が情報を発信してくれているが、若い世代がそこまでたどり着いていないと感じる。様々なツールを用いてくれていることを、高校を卒業するタイミングで周知するなど、スポーツを身近に感じてもらえるような方策が必要ではないか。

(事務局) 今後も効果的な広報媒体を模索していきたい。

(委員) ダイレクトにスポーツに結び付けるだけでなく、機械が好きな人はトライアスロンの自転車を組み立てることからスポーツに興味をもったりするなど、様々な紹介の仕方もあると考える。

(委員) 地元の市はプロスポーツチームと連携しているが、スポーツ振興だけでなく地域振興につなげていかなければならない。自治体とプロスポーツチームがお互いに何を求めているのかを協議会などを通して深めていきたいと考えているので、県が調整役を担ってくれると助かる。

(事務局) プロスポーツの人を集める力を地域振興に活かして、お互い良い関係を求めていきたい。行政としてどこまで関われるか、検討していく。

(委員) 総合型地域スポーツクラブでも、小中学生の人数は多いが高校生になると大きく人数が減る傾向があり、その次はシニア世代が多くなっている。平日の教室には働く世代の方は参加しにくく、人数も少なくなっている。様々なイベントを開催する際、県のホームページなどで掲載してもらえると助かる。

(事務局) 市町村にイベント情報を提供していただいて掲載しているが、今後、各団体の主催イベントの掲載についても検討していく。

## (3) その他

(委員長) 審議事項については以上だが、全体のことでも意見や質問はあるか。

※意見・質問なし

(委員長) では、以上で議事を終わる。